

電力危機や震災を教訓として、 「省エネ」などへの技術革新を続けることが、 次の成長への活力となるはずです。

ヤスハラケミカル株式会社

代表取締役社長

安原 禎二

Teiji Yasuhara

景気回復と原料高など、 プラス/マイナス要素が混在した2010年

2010年、つまり震災前までの状況を振り返りますと、新興国の経済拡大などにより、リーマンショック以降停滞していた日本経済もようやく持ち直し、国内の消費や輸出も活性化していたといえます。

当社製品の場合、その多くが直接的あるいは間接的に海外へ輸出されていることから、昨年10～12月期くらいまでは輸出関連品が好調に推移していましたが、1～3月期になると各国政府の金融引き締め策などの影響から、少し落ち着いてきたという印象です。

一方、原料調達の視点で見ると、円高・原油高の影響は当然深刻です。しかしそうした市場の動きは昨年急に始まったのではなく、2002年頃からゆっくりと着実に上昇していると認識しており、リーマンショック以降少し停滞した

時期もありましたが、昨年くらいから、また上昇傾向が顕在化してきたと見るべきでしょう。

経営においては、こうした経済の大きな動きを冷静に注視していくようにしています。

製品の価値を正しく評価していただき 適正な価格をいただくことを大切に

2010年度の4月から3月までの業績(数字)だけ見ると、当社はとても好成績となりますが、事業経営においては継続性をなにより重視していますので、短期的によかったというだけで「良し」としているわけではありません。むしろ最終期の金融引き締めの影響が今期も継続し、相当厳しくなるのではと警戒しています。

特に好調だった粘着・接着用樹脂部門や化成品部門も、量が多く売れたということよりも、お客様に当社製品の

品質を正しく評価していただき、多少高くても採用いただいていることを嬉しく思っています。

今後も、こうした高付加価値製品をより多く開発し提供し続けることで、企業の体質強化と収益拡大、従業員一人あたりの所得拡大といったことを、バランス良くめざしていくつもりです。

2010年度取り組んだ重点課題の 成果と今後

2010年度重点的に取り組んだ事業でいえば、生産設備の整理統合と新研究棟の設置、瑞穂プロジェクトがあげられます。特に生産設備の整理統合については2010年までを一区切りとして集中的に進めてきましたが、これで終わりというわけではありません。合理化や省エネは、エンドレスの課題だと思っています。少ないエネルギーで生産する技術をさらに追求し続けるつもりです。

研究部門は、ヤスハラケミカルらしい製品を作り、いつまでもお客様に喜んで買っていただけるようにするための長期的投資ですから、新研究棟を作って1年でスグに結果が出るとは思っていません。新研究棟は「情報共有」をテーマに、研究員がいつでも互いの顔が見える「容れ物」を作ったつもりです。この仕掛けにより3年～5年経過して、何かおもしろい成果が出てくるように期待しています。

瑞穂プロジェクトについては、想定以上の作業量が発生し、ようやく本格稼働しはじめたばかりなので評価はこれからです。ただ現場や社員に負担をかけた分、若い社員が会社の全体像が見えるようになったことはプラス効果として受け止めています。負担が大きかった分、それだけ強い筋肉がついたといえると思います。

日本の競争力と自社の競争力を 皆が真剣に考える時期

東日本大震災の影響については、おかげさまで当社営業所には被害はありませんでした。一部のお客様や原料仕入れ先様が被害を受けましたが、代替調達先もすぐに見つかったことで、製品供給が滞ることもありませんでした。

今後については、あれだけ大規模な災害ですから、国内産業界や輸出面での推移を注視しておく必要はありますが、それよりむしろ震災前からの兆候である原料高や円高、日本製品の競争力減退のことを深刻に受け止める

べきです。

今は震災や原発ばかりに目を奪われるのではなく、日本の競争力、自社の競争力をいかに強化するかを、産業界全体で真剣に意識するべきではないでしょうか。各社が自社の技術を磨き、原料を大切に使い省エネに役立つような技術革新を進めれば、国内でも海外のお客様でも必ず適切な価格で買って下さいます。それが自社を強くすることになるし、ひいては日本の競争力を復活させる力になるはずで、世界に示すべきは、そうした日本ならではの復興への成功体験です。

震災と電力危機に対し悲観的になる必要はありません。それを教訓として次の成長や活力にいかすべきです。具体的には「省エネ」ということを、社会も企業も個人も、皆が自分の課題として考えることで、次の時代の成長へのヒントを与えてくれるはずで、我が社も災害を教訓に、プラスに変える力を培っていきたいと考えています。



撮影協力：ギャラリーカフェ 風の時計（福山市）

今回取材と撮影にご協力いただきました「風の時計」は、福山市芦田川河口の丘の上に建つ自然派のカフェテリアです。隠れ家的な立地にありながら、大きなテラスから眺める瀬戸内海の景観や高感度なインテリアが人気で、遠方からの利用客も多く集めています。福山工場から車で5分程度の位置にあり、工場スタッフたちのランチやプライベートタイムでも利用されているようです。